

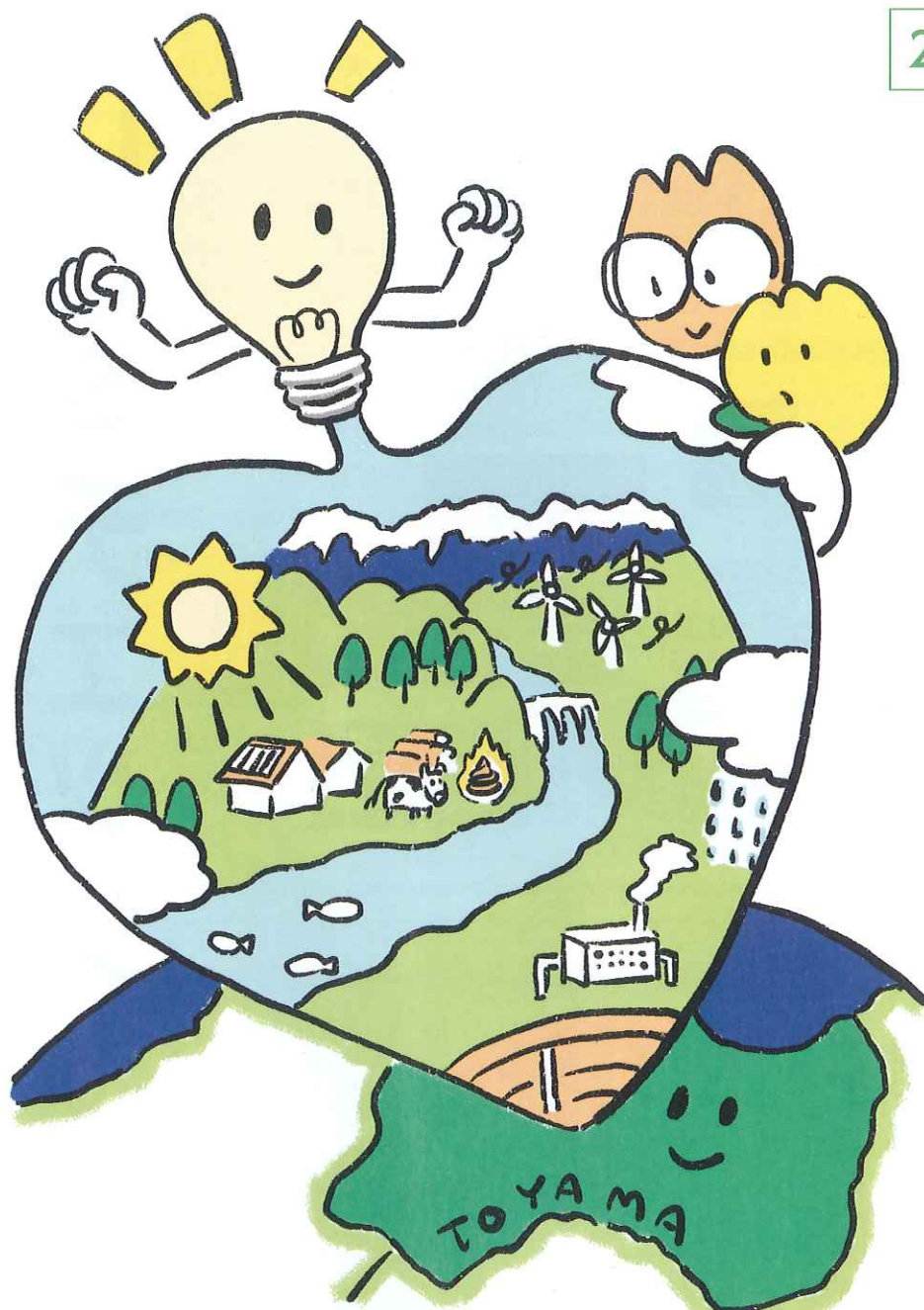


TOYAMAジャーナル

創刊号

2021年6月発行

特集・・・P2



私たちも意外とできてた? 県民の生活にも身近な
SDGSチエックリスト

令和3年度予算は過去最大の6,336億円。
2月定例会・議員34名の質問を一挙掲載

本会議 代表質問	2名・・・P4	本会議 総括質問	2名・・・・・・・P11
本会議 一般質問	15名・・・P5	マンガ「県議会って、どんな仕組み?」	・・・P13
予算特別委員会	15名・・・P8	令和2年度を振り返って/主な委員会活動ほか	

令和3年3月10日 本会議 一般質問

ワクチン接種記録システムの適切な運用について

質問 新型コロナのワクチン接種にあたっては、接種情報をしっかり把握する必要があることから、国が新たに導入する接種記録システムの適切な運用が重要であるが、どのように取り組むのか。

回答(厚生部長) ワクチン接種では複数のシステムが稼働することになっており、これらのシステムの情報連携が重要となる。市町村や医療機関の現場

が混乱することなく、正しく運用できるようあらゆる機会を通じて国に要請していく。

感染収束の鍵を握るワクチン。公明党は現場の実情に応じた安全安心で円滑な接種体制構築を推進します。



(録画中継 QRコード)



吉田勉(公明党)

除雪体制の強化について

質問 除雪オペレーター確保育成、除雪体制の強化にどのように取り組むのか。

回答(土木部長) 除雪機械を借り上げる場合の委託経費について、稼働状況に関わらず必要となる経費を固定費として支払うよう見直し、今年度からは機械損料のうち償却費の半分を県が支払うよう見直し、負担軽減に努めた。

さらに、オペレーター確保のため、免許の取得費用等の補助率を引き上げ、支援を強化する。

将来にわたり安定的な除雪体制を維持するために、県として最低保証制度を創設すべき。



(録画中継 QRコード)



安達孝彦(自由民主党)

水と緑の森づくり税の実績と課題について

質問 この税は、来年度、課税期間の最終年度を迎える。実績と課題を踏まえ富山の森に元気を取り戻すための決意を知事に問う。

回答(知事) 13年間で里山林整備や杉と広葉樹の混交林整備、優良無花粉杉「立山 森の輝き」の植栽に加え、県民参加の森づくり活動へ延べ14万人の参加など着実に成果を上げてきた。一方、将来

の里山林の維持管理を不安視する地域の増加などの課題もあり、県民の理解が得られるなら、税の延長をお願いしたい。

中山間地域での森の再生に向けた取り組みを強化しなければならない。サポートセンターを基盤にして取り組みたい。



(録画中継 QRコード)



稗苗清吉(自由民主党)

ワンチームとやま推進に向けた市町村との連携強化

質問 ワンチームとやまの推進には市町村との連携が重要と考えるが職員交流の実態と今後の方針を問う。

回答(経営管理部長) 現在、市町村からは13名の研修生を含め19名の職員を受け入れており、県からは18名派遣している。県は令和5年度までに土木職等技術職員を15名増員し、市町村支援に充てるほか、土木センターと農林

振興センターに市町村支援の窓口を置く。さらに県採用市町村派遣制度(仮称)の実施に向けたニーズ調査を行う。

ワンチームとやまの実現には職員交流により築かれた信頼関係が必要不可欠。積極的な取り組みを評価したい。



(録画中継 QRコード)



藪田栄治(自由民主党)

平成の大合併後、持続可能な地域づくりへ

質問 平成の大合併後、地域コンシェルジュの活用も含め市町村と連携して支援を行っているのか。

回答(経営管理部長) 合併特例債の償還、地方交付税の特例算定の終了や老朽化した公共施設への対応など、人口減少、高齢化進行なども合わせ財政運営上の検討が必要。行政サービスのスリム化は避けて通れない。課題を自ら解決する地域づくりが必要であり、県としても

地域コンシェルジュの活用も含め市町村と連携して支援を行っていききたい。

周辺部や中山間地の過疎化対策には、地域コミュニティの活性化は大きな課題。県、市町村一体的な支援が必要。



(録画中継 QRコード)



川上浩(自由民主党)

平成の大合併で、2004年に新「砺波市」「南砺市」、2005年に新「富山市」「高岡市」「射水市」、2006年に新「黒部市」が誕生したよ。

市町村の数が35から15になっちゃったね。

